

平成27年7月9日参議院文教科学委員会議事録

次世代の党 松沢 成文

○松沢成文君 次世代の党の松沢成文でございます。

大臣、唐突な問いかけですけれども、二兎を追う者は一兎も得ずということわざ、御存じですよ。もちろん文科大臣にこんなことわざの意味を聞くのはやぼですけれども、簡単に言うと、二匹のウサギを一緒に追おうとして、二兎とも捕まえようとしても二兎とも逃しちゃうよということわざですね。私は、今完全にこの国立競技場の建設問題というのはこういう状況に陥っていると思うんです。

ラグビーのワールドカップと東京オリパラ、これ二匹のウサギですね。これ両方とも成功させようと無理に無理を重ねるので、もう国立競技場の工事費はどんどんどんどん上がっていく、工期が間に合わないんじゃないかと言われている。ラグビーに間に合わせるため、あるいはオリンピックに間に合わせるためにはもう屋根もなしだ、可動席も後回しにしよう、後回しというか、これ仮設席になっちゃうかな、分からないんですけれども、あるいは芝生の育成装置も後回しにしよう。でも、そんなことをやっちゃったら、オリンピックが終わった後、またその工事をやらなきゃいけない、そこにもお金が掛かる、そしてそれはその後の新国立の運営費にも影響を与えちゃうんじゃないか。こうやって二兎を追おうとするから全部がおかしくなっているんですよ。

こうやって混乱したときは、大臣、選択と集中です。しっかりとラグビーのワールドカップと東京オリンピックの成功をさせるために、二つをちょっと切り分けて考えて、両方成功させる道はないのか、こういうふうに考えないと政治決断というのは私はできないと思いますね。

さあ、そこで伺いますけれども、まず、ラグビーのワールドカップまでに新国立競技場を造るというのは、何度も大臣はおっしゃっていますが、国際公約であり絶対条件であるということですが、その根拠をお示してください。

○国務大臣（下村博文君） ラグビーワールドカップとオリンピック・パラリンピックを両方成功させるということは、必ずしも二兎を追うということでは私はないと思います。ですから、例えとしてこれに当てはまるとは思いませんが、しかし、まず御質問についてであります

が……（発言する者あり）まず御質問についてお答えしたいと思うんですが、この国立競技場につきましては、平成二十三年二月にラグビーワールドカップ二〇一九日本大会成功議員連盟におきまして八万人規模のナショナルスタジアムへの再整備について決議がなされ、その後、同年七月に東京都が二〇二〇年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市に立候補したという経緯から、両大会の主会場とすることを念頭に改築計画が進められてきたところであります。

平成二十六年十月には東京都が国立競技場を試合会場とする計画で二〇一九年ラグビーワールドカップの国内での開催都市に立候補し、今年三月にラグビーワールドカップリミテッド、これはラグビーワールドカップの大会の主催者であります。この理事会におきまして、開催都市十二会場が決定された際、国立競技場での決勝戦及び開幕式の開催も決定されたという経緯がございます。その後、ラグビーの大会組織委員会と東京都は国立競技場を試合会場とすることを前提に開催のための契約を締結をし、政府も、ラグビーワールドカップ二〇一九年に間に合うよう新国立競技場を完成させる必要があるというふうを考えて今準備をしているところであります。

○松沢成文君 今大臣に経緯お話いただきましたけれども、実は、二〇〇九年にラグビーのワールドカップを日本でやりたい、これは日本国でやりたいということですね。何も東京じゃなくていいんですよ、オリンピックは東京という都市で立候補していますが、ラグビーはあくまでも国でありますから。それで、申請したときにはまだ旧国立競技場が会場の一つだったんです、横浜スタジアムとか。ですから、立候補したときにはラグビーは新国立でやるというのは一切なかったんですね。そのときは旧国立でした。

私は実はそのとき知事を務めていまして、横浜市長と神奈川県知事、ラグビー協会に呼ばれました。それで、できれば横浜の競技場の方が旧国立より大きいからそこでもう準決勝、決勝もやりたいので、是非とも横浜市、神奈川県、協力してほしい、スタジアムの改修が必要ですからね、こういうことも言われているんです。ですから、ラグビーのワールドカップに立候補したときは新国立なんという構想がまずなかったんです。むしろ、やるとしたら横浜でもいい、あるいは埼玉でもいいわけだったんですね。

それから、今ラグビーワールドカップリミテッドのお話がありました。これは、ワールドラグビーという国際組織があります。その下につくっている子会社みたいなもので、ここがラグビーのワールドカッ

プを運営するんですね。ここの理事会で会場を決めるんです。そのときに、今年の三月に理事会に出したのが新国立競技場なんですね。それで、横浜とか釜石とか、いろいろ十か所ぐらい入っていたんですね。

でも、これは理事会で決めることなので、変更は決して不可能ではありません。だって、今、オリンピックの会場、I O Cの理事会でどんどん変更しているじゃないですか。こうやって変更できるんですよ。これ、国際公約変えられないというんじゃないくて、日本が変えたがらないだけなんです。

オリンピックは八万人です、条件は、スタジアムね。ラグビーは六万人以上ですから、七万二千人入る横浜でも、あるいは今回会場には入っていませんが、本当はサッカー専門の埼玉スタジアムの方がこれ見やすいんですね、ピッチと近いですから、陸上競技場がないから。ここだって六万人以上入るんですね。でも、埼玉スタジアムがまたやると言い始めると、今度、同じ埼玉で立候補している熊谷が怒っちゃうので、そこら辺ちょっと難しいところあるんですけど。

そうやって、ラグビーのワールドカップは新国立を使わなくても十分対応可能だし、国際組織も、日本から言えば絶対に、そんなの絶対困るとは言いません。契約があるから違約金とかそういう問題は出てくるかもしれませんが、でも、これはスポーツの祭典を成功させるために、日本の事情がこうだから是非とも横浜でとか埼玉でというのは十分可能です。その上、横浜も埼玉もF I F Aサッカーワールドカップの準決勝、決勝、経験していますからね。もう地域でもそういう大きなマッチをやるときの準備もできているわけですよ。

ですから、私は、大臣が国際公約だとかラグビーワールドカップは絶対変えられないと言うのは、私はおかしいと思います。それは日本の政治の決断なんです。それを逃げています。

じゃ、皆さん、もしラグビーのワールドカップをほかの会場でやるとする。そうしたら、約十か月期間が延びるわけですよ。その十か月を使えば、槇さんが言うような、新しく設計からし直して新しいものを造り直す、コンパクト五輪を実現するという事も可能だし、あるいはどうしても今のザハ案にこだわってキール方式でやりたいとなっても、でもその工期が約十か月延びますから、屋根も芝生の育成装置も、あるいは可動式のスタジアムもフルスペックで造り上げてオリンピックを迎えることもできるんです。

ですから、私はそれを選択と集中と言っているんですよ。なぜ、そういう決断を政治がしないのか、これについてはいかがでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） 論理立てて説得力があるようなお話のされ方ですが、これは例えば私一人で決めるとか、そういう政治決断という話ではないんですね。

経緯については、そういう経緯があったということはそのとおりだと思います。ただ、その後、先ほど私が申し上げたような、国立競技場については決議とか、それからその後の二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック招致が決まったという中での国立競技場の建て替えの中で、ラグビーについては、ラグビーの日本における大会組織委員会とそれから東京都が、この国立競技場を試合会場とすることを前提として開催のための契約を締結しているというそういう経緯がありますから、何か政府が全部決められるとかそういう話ではまずないということでもあります。

それから、榎さんの案が間に合うということで、私も直接お会いしてお話を聞きました。ただ、この場合は、ラグビーワールドカップはこれは間に合わないから違う場所でやって、オリンピック・パラリンピックに間に合うためにという今のお話でありまして、それについてはお聞きいたしました。

先ほど申し上げましたように、これは相当のリスクがあると。つまり、普通の手続をしても二〇二〇年の六月になってしまうと。超法規的という言葉を実際榎さんたちも言われていましたが、本来、一年、二年掛かることを、一年半掛かることを、許認可を半年に短縮するとかいう意味での超法規的ですが、そういうことをすれば間に合うという前提でありましたが、これは、利害関係に合致しないいろんな業界の方々にも私お聞きしてお話をしましたが、間に合うか間に合わないかについては、これはリスクがある、これは絶対間に合うとは言えないと。

ですから、例えばラグビーワールドカップを違う場所にして、そして新たにもう一度ゼロから造り直しをする、国際公募をしながらという形をしても、オリンピック・パラリンピックについてもぎりぎり間に合うか間に合わないかというリスクがあるということの中で、これはラグビーワールドカップも、それからオリンピック・パラリンピックも必ず成功するということが前提ですから、ですから、間に合わせるといふことと、それからコストの問題については、これから創意工夫しながら国民の皆さんに対する努力をしていくということが政治判断だというふうに私自身は考えているところであります。

○松沢成文君 大臣、この間に合う間に合わないの議論の中で、文科

省にも聞いたんですけれども、オリンピックの前の年に、プレ五輪というんですか、これやりますと。だから、きちっとそれができるような状態にしないといけないので、ラグビーがいなくなったからといって、じゃ、オリンピックの前の年にプレ五輪やるんだから、それまでに間に合わせなきゃいけないので、工期が長くなるというのはないんですよというお答えもいただいたんですが。

ただ、私、昨日の説明資料をよく見ましたら、ラグビーのワールドカップは仮設席でやるんですね。ですから、常設席があって、その前に仮設席を造って、できるだけフィールドに近いところまで見れるようにしようとやるんですね。それを置くので、陸上のトラックの、簡単に言えばじゅうたんですよ、これは敷かずに、傷付いちゃうから、仮設席でやろうと。ラグビーのワールドカップは一九年の九月、十月でやるんです。それが終わって仮設席を取って、それからトラックのじゅうたんを敷き始めるんですね。この工事をやっていたら二、三か月掛かりますよ。そうすると年が終わっちゃいます。ですから、プレ五輪を前年にやることはできないんですね。ですから、事ほどさように様々なことがこんがらがっちゃって、今、問題が複雑化しちゃっているというところなんです。

さあ、もう一点聞きますけれども、昨日の有識者会議でサッカー協会の小倉会長が最後に発言されたそうなんですが、実は、この国立競技場にはまだまだ将来いろんな可能性がある、サッカー、F I F Aワールドカップをもう一度今度は日本でやりたい、そのためには八万人の常設席が条件だと。今回の有識者会議での資料では、常設席を仮設席にして経費を減らしますと言ったんですね。じゃ、そのままだと八万人行きませんから、一万五千引くと六万五千なんです、常設席は。そうすると、サッカーのワールドカップが、今度は招致将来するときに条件厳しくなっちゃう、そんなのは困ると。

この国立競技場の財源にはt o t oの収益使うわけでしょう。t o t oというのは、サッカーやる人がみんなで賭けというかゲームをして楽しんで、その収益を使うわけです。そのサッカーファンのお金も使っておいて、税金プラスですよ、それで、結局、サッカーのワールドカップを招致しようとするときに、あれだけ自分たちがt o t oでやったお金も回しているのにサッカーのワールドカップができないじゃないか、これでレガシーになるのか、これで本当に日本のナショナルスタジアムでいいのか、こういう批判も来るとは思います、いかがですか。

○国務大臣（下村博文君） まず、プレ大会が前年度にできないのではないかという御指摘がありました。これは正確ではございません。新しく建設する国立競技場の陸上競技トラックの舗装工事については、JSCにおきまして、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、ラグビーワールドカップ二〇一九の閉幕後四、五か月の工事で整備する見込みであるというふうに聞いております。

今予定されているのは、サッカーを二〇一九年の十一月から十二月ぐらい、それから陸上競技は二〇二〇年の二月から四月ぐらいでプレ大会をするということであり。この国立競技場で行うテストイベントとして、このように陸上競技、サッカー、予定されていますが、その時期や内容については、今後、大会組織委員会と関係競技団体との間で協議される予定でありますので、この工事期間との調整をしながら、前年度からプレ大会をするという今立て付けをしているところでございます。

それから、八万人規模が常設されていないとサッカーのワールドカップ招致できないということについては、有識者会議で小倉さんの方からそういう案がといいますか、提案といいますかね、賛成する前提として、それが見通しが付かないと賛成できないという話があったというふうに聞いております。それについては、JSCの河野理事長の方から、ワールドカップサッカーができること前提で、二〇二〇年以降検討したいというふうに答弁したというふうに聞いております。

○松沢成文君 私は、この現行計画のままで突っ込んじゃうと大変な事態になる可能性が私は強いと思っています。工事費がどんどんかさんでいく、挙げ句の果てに間に合わないと、こうなったとき、これ、誰が責任取るんでしょうか、国民のためのオリンピックと言っておきながら。

私は、大変僭越な言い方しますが、やっぱりこの両方の大会を成功させるために新国立をと言ってリーダーシップを取ってきたのは森組織委員会会長だと思います。私は、そういうスポーツ界のドンですから、それだけの政治力のある方だと思いますし、私も親しくしています。私もラグビー議連にも入っていますし、スポーツ議連にも入っています。これは、オリンピックもサッカーワールドカップも何が何でも成功させたいと思っている一人ですよ。

ただ、ここまで来たら、私は政治決断が必要だと思っています。文科大臣と、新しく生まれた遠藤オリパラ担当大臣と、それと、もうこ

れ国家プロジェクトですから安倍総理と、是非とも話合いをして、森大臣のすごく意向が強いと思いますけれどもね、これ、ラグビーまでに間に合わせて、ラグビーもオリンピックも成功させるんだと。でも、ここはしっかりと進言をして、やっぱり大上段からの大きな決断をしていただきたいと思います。私は、森元総理もきちっと話せば分からないわけではないと思います。そういう本当の政治家のぎりぎりの決断をきちっとしていかない限り、私は、このまま泥沼に入ってこの両大会が成功できないということにもなりかねないと思いますので、是非ともよろしくお願いいたします。

以上です。